



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

九州支部の活動

4th International Kyushu Colloid Colloquium

コロイドおよび界面化学部会・九州支部では、30年以上にわたり、九州でのコロイド・界面化学分野の研究の発展を目的とし、「九州コロイドコロキウム」を開催しています。九州地区の研究者や学生が一堂に会してコロイド・界面化学の基礎から先端研究までを学び、自身の知見を深め、情報を共有することを目的としたシンポジウム（勉強会）です。さらに、最近では、4～6年に1回の割合で、海外から研究者を招いて国際シンポジウムとしても開催しています。昨年度の九州コロイドコロキウムは、九州大学基幹教育院の瀧上隆智先生のお世話で、国際シンポジウムとして“4th International Kyushu Colloid Colloquium (4th IKCC)”を、平成28年9月27日(火)～28日(水)の間に、九州大学の共同利用施設である西新プラザにおいて開催しました。



4th IKCCの参加者（懇親会后）

1日目は、好村滋行先生（首都大）と Ramon Rubio 先生（コンプルテンス大）の招待講演があり、好村先生からはリン脂質膜における不均一構造の形成の要因について、また、Rubio 先生からは、界面に存在する微粒子に起因する界面構造のダイナミクスに関する講演がなされ、出席者と活発な意見交換が行われました。



Rubio 先生による招待講演

さらに、4件の口頭発表と28件のポスター発表が行われ、若い研究者も含めて有意義な研究討論が行われました。



ポスター発表の様子

また、ポスター発表の後には、場所を移動して、明治より存在する博多の酒蔵（国登録有形文化財に指定）で懇親会が行われました。美味しい食事を堪能すると

ともに、博多の地酒（日本酒）をいただきながら、参加者間の交流をより一層深めることができました。



博多の酒蔵での懇親会の様子

2日目は、Michael Gradzielski 先生（ベルリン工科大）と石田尚之先生（岡山大）の招待講演と4件の口頭発表がありました。Gradzielski 先生からは、オリゴ糖界面活性剤による自発的ナノエマルション形成について、石田先生からは界面間の疎水性相互作用（引力）の要因とその機構に関する講演があり、新しい研究の視点が含まれ、参加者の興味を非常に引く有意義な内容でした。

今年度の活動予定

今年度の九州コロイドコロキウムは、平成29年9月28日(木)～29日(金)に、鹿児島大学の新留康郎先生のお世話で、鹿児島で開催されます。是非、興味のある方はご参加下さい。

〔2017年度コロイドおよび界面化学部会九州支部・支部長 池田宜弘(福岡女子大学)〕

© 2017 The Chemical Society of Japan